

★お子さんと一緒にお読みください

～新型コロナウイルス感染症の県警戒度は現在ステージ1～

オミクロン株の流行にかかわらず、年末年始には帰省や観光などの人の流れが生まれ人々の接触が増えるなどして、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されます。

マスク、手洗い、3密の回避という基本的な感染対策を徹底し、特に室内の換気や加湿などに留意しながら、家族で楽しく元気に冬休みを過ごしてもらいたいと思います。



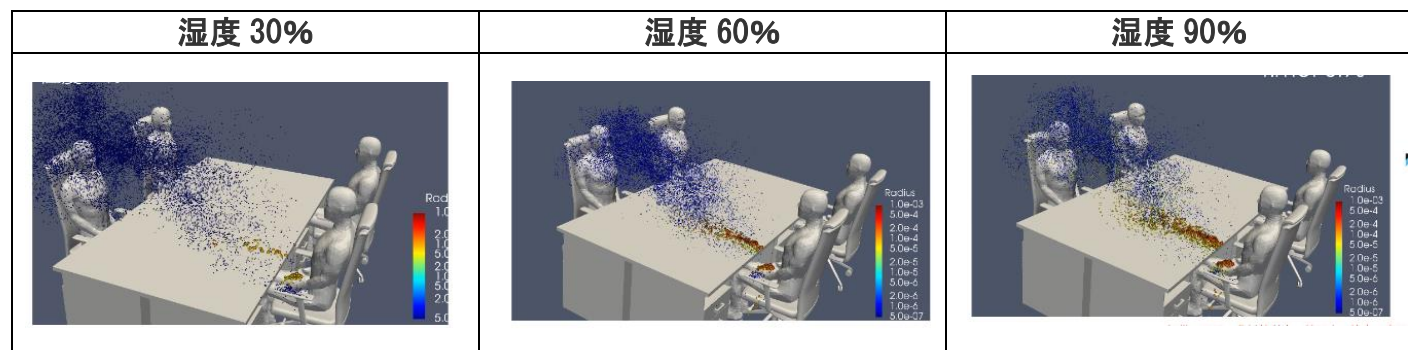
冬はエアロゾル感染に注意！！ 換気と加湿が大切です！

空気中にたどようマイクロ飛まつのことをエアロゾルといい、ウイルスの入ったエアロゾルを吸い込んで感染することをエアロゾル感染と言います。

マイクロ飛まつはとても小さいのでマスクでは防ぎにくく、換気をして空気ごと入れ替えることが大切です。

飛まつ	エアロゾル（マイクロ飛まつ）
ウイルスの周りを水分が覆っている。 水分があるので重く、下に落ちやすい。	飛まつ水分が蒸発し、微粒子になったもの。 軽くて小さいので長い時間、空気中を漂うことができる。

～スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション結果～

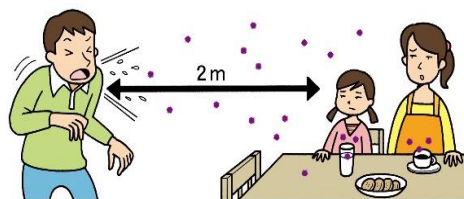


4人が対面で座っていて、その中の1人が咳をした場合、湿度30%、60%、90%のそれぞれにおいて、飛沫・エアロゾルがどのように飛散するかを再現した結果です。

湿度が高いほど飛沫は咳をした人の机の上に落ち、湿度が低くなるにしたがって、机の上に落ちる飛沫の量は減り、その分小さな飛沫となって空気中を漂う量が増えることが明らかになりました。これは、空気が乾燥することにより、飛沫の蒸発量が増え、エアロゾル化することを示しています。このことから、乾燥する冬場は室内換気を頻繁に行い、発生したエアロゾルをできるだけ早く室外に逃すことが重要です。

また、咳をした人の正面の人への到達量を再現した結果、湿度90%の場合、飛沫の量の約2%が正面の人に到達するのに対し、湿度30%の場合、約6%も到達することが分かりました。

このことから、冬場は加湿器などを使って乾燥を防ぐことで、空気中を飛散する飛沫・エアロゾルの量を減らすことも重要です。



■冬休み中に児童や同居する家族の方が新型コロナウイルス感染症にかかったり、PCR検査を受けたりする場合は学校までご連絡願います。時間外や土・日・祝日の場合は市教委（028-632-5115）にご連絡願います。